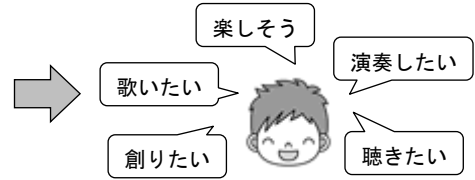


授業改善 3つの強化ポイント2017 (音楽編)

① 児童生徒の学習意欲を高める課題の工夫

◆楽しく主体的に音楽に関わり、音楽活動の喜びを実感するような学習活動にするためには、導入を工夫して課題意識を喚起することが大切です。

- ★本時の狙いに合わせて導入を工夫します (例)
- ・比較 (音色・リズム・速度・強弱・音の重なり・調などの「音楽を形づくっている要素」を変化させて)
 - ・クイズ形式 (曲名・演奏楽器・国や地域・テーマの回数などを想像して)
 - ・体を使った表現 (手拍子・指揮・手を挙げる・揺れる・踊るなど)



小学校の【課題】例

- ・歌詞の雰囲気合った歌い方を工夫しよう (歌唱)
- ・曲のイメージに合う演奏を工夫しよう (器楽)
- ・問いかけ合ううたをつくろう (音楽づくり)
- ・曲のおもしろさのひみつを見つけよう (鑑賞)

中学校の【課題】例

- ・民謡らしく表現するための声の出し方を探ろう (歌唱)
- ・演奏の仕方を工夫して、箏の音色を生かした演奏をしよう (器楽)
- ・日本の音階を使って、反復・変化を生かした旋律を創ろう (創作)
- ・歌舞伎とオペラの歌声の違いを感じ取ろう (鑑賞)

② 考えを広げ深める対話的な学びの充実

◆課題を追求する学習過程においては、考えを交流し、共感・共有しながら、音楽表現や鑑賞の学習の質を高めていくことが大切です。

★音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を聞き取り (知覚)、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り (感受)、音楽活動と言語活動の往還を図りながら、主体的・対話的に学ぶ学習を展開することが重要です。

【表現領域】 **思いや意図** ↔ **演奏して試す**
 【鑑賞領域】 **音楽の特徴** ↔ **聞いて確かめる**



★教師は児童生徒の発言や活動を問い返したり、価値づけたりして、知覚と感受を結び付け、板書や拡大楽譜等に分かりやすくまとめて、全体の学びの質を高めることが大切です。



★個と集団の学習が相乗効果を生むように学習過程を工夫することが大切です。

③ 学びを自覚し、次につなげる振り返る活動の充実

★本時の終末で、学んだことを言葉で確認し合うだけでなく、実際に学んだことを生かして「歌う」「演奏する」「聴く」等の振り返る活動を行い学びの達成感・有用感を味わわせることが大切です。



作曲家はこんなことを伝えたかったんだね。改めて聴くとよく分かる。

次はこの曲のよさを伝える紹介文を考えよう。



工夫して歌うって気持ちいい。授業の初めと変わったね。聴く人に感動を与える合唱をもっと工夫したい。次の音楽の時間が待ち遠しいな。



◆振り返る活動で、音楽を伴って自らの学びを実感することが、次時への意欲につながります。